藻塩草十

太政官文庫
和書門
類
三一九六五
號
函
架
二〇
冊

内閣文庫
和書
類
三一九六五
號
二〇
冊
二〇二
函
架

内閣文庫
番號 和 31965
冊數 20 (10)
函號 202 176

国立公文書館
National Archives of Japan

内373

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

藻塩草巻第十

鳥類

鳥 一　鶯 二　燕 三　喚子鳥 四　雲雀 五　雉 六
山雉 七　鷺 八　鶺 九　郭公 十　水雉 十一　雁 十二
鶴鴿 十三　鶉 十四　鳩 十五　鷹 十六　鵠 十七　千鳥 十八
鷽 十九　鷺鷥 廿　鴨 廿一　鴛 廿二　鵐 廿三　鵐 廿四
鸐 廿五　雞 廿六　雀 廿七　鳥 廿八　鵲 廿九　鶏 卅
安持 卅一　秋波 卅二　やうこ 卅三　塚鳥 卅四　鴛 卅五　伯労鳥 卅六
鴨 卅七　山陵 卅八　小陵 卅九　四十陵 四十　鴛 四十一　増鳥 四十二
火燒鳥 四十三　鶉 四十四　鵲 四十五　松芦 四十七　都鳥 四十八
鴾 四十九　水乞鳥 五十　白鳥 五十一　行行鳥 五十二　啄木鳥 五十三　木宏 五十四
鳥 五十五　好耍 五十六　鶴胡 五十七　鶯 五十八　河鳥 五十九　撫鳥 六十
風鳳 六十一　鵠 六十二　カヽ 六十三

○鳥　二付二手外巢

○春鳥　○ウグヒス　秋の鳥　○ヒヒ　俗行来例し　初て巣鳥ニ　活方ニかくうけり

○たきつ　○ツル　舞ヲし則　○ヒヒの村　○ツル　菅方ニ　かくまて　○ヒヒ　細江

水鳥のひなを　有馬老八ヒヒを行られし所主のかたらひ　○ひなし

ら流し　ひなを　馬と称らし　それら事ヲ　ヒヒ宮の鳥ヒヒ

入ひなを　ひなを　それしを　○ヒヒ　○ツル　千鳥　あん字の事ヒヒ　紅葉ヒヒ

多ヒヒ　但不限鶯春百千鳥し　所ヒ　紅葉　御例ヒヒ　文字流　海ヒ

百千の鳥し　鶯も　百千鳥　○百千鳥　白鳥　ヒヒ　○水ツル　川ツル　鶴

○大ツル　○ヒヒ　○ツルの　教　○ツル　○かをつる　○ツル　言心

弱八射ヒヒ　文　弱本ハ　ヒヒ　ヒヒ　ヒヒ　ヒヒ

ヒヒ　○ツル　ヒヒ　ヒヒ　ヒヒ　ヒヒ

○来鳴　春しけきときなれば毛をふく　○毛衣　古歌　○古歌　○菓　○菓子　○ちねの郭公　○言て
○なく言とりすの　○かつらし　○花の
○色の緑　○ちしの　○百しの　○乃このこかきき
○ちとの　○乃ちよの来のなくなし　○ちとふし　○ちとふ山やまあんしちとふ
○ちとの里よ　○羽ねをかきて　○水し　○つの
なくく水し　○ちとの来鳴　○ちへ　○ちとの
ちとふ　○ちとの　○ちとの　○ちとの　○ちとの　○ちとの　○ちとの　○ちとの　○ちとの

雉木果

寺巻

鶯　二

○初鶯　○青山乃友し　○青山の春のまちとし

○乃春の山をふく　○乃花よつまとし　○乃木
○ちとの桜　○乃木ちひちとす梅　○乃
○乃花　○乃花　○乃
○乃桜　○乃桜　○乃
○乃花　○乃花　○乃
○乃花　○乃花　○乃
○乃花　○乃花

世をー　低つとをれし　昔人衣は鶯の身の　梅の香
やうるらん　鶯の巣の中に　昔の巣の巣をもとめて
初ねとなるあるかりなり　一乃巣作る枝
そこうあし　巣とり　そこうー枝
うくいす梅竹　やとれ　やとれ　鶯
巣とりとむ　雲井よ　ひかるる
ひかるる　最乃植ねよ　初うる初のうるはし
こゝの里かれぬ　八重山ー　鶯の巣
郭公　あこ　鶯千　枝をとる
とり　ひくのよる尾羽　青柳乃枝
りらく　ひくの宮の竹乃林より　三月をこる
鶯の巣　花見る
蘇　三　白ひる　山里八重
花ある　つとらあ　ひかる
ひかる
喚子鳥
うつこる　鶯不用　文書乃間祝言
初音の教ハー　ひかる

人まつとひの雲雀のうたの音聞くや山越く山里よ

雉をみるひし　きさらの中山　古舟山うと雉子よりの

雲雀　五

玄鳥のあとの雲雀しらの床しうく　こ蔵ちの

雲雀入　飛立し　こ志あくく　素乃下風よ

あくるまくあくく　子を思ふ巣立乃雉

素葉乃家

雉　六

きくとも　夜ふかくなきくとくとくとくとくとき

くくくくと月五音　月本記にきしとうの雉のこと

楫野　こさかくく雉ひとつ　かくく山雉子　やうけ乃きくと

八雲しやうけのきくすれとうしやうけのきくけ　素ふ乃

雉をやうけの雉くうれとうくくうけきし

きくす　あくくきくと　食神ひくくく

[illegible]

[illegible]

山雞 七

[illegible]

[illegible]

鷺 八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]　五

○ま島　[illegible]

○[illegible]の[illegible]

○[illegible]川を[illegible]

○[illegible]川[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

初時雨　但宗祇法師[illegible]

○[illegible]山[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○やうやまうく山のもとにつくりそめし世のはじめより住侘ぬるよ

[illegible]

○そもそも田たがさ　くさもろの田を作るに

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○

[illegible]

初しの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○青鳥　かへる　○の文

○鶯鳴　漢文雅則鳴物則、梅山春今鳴疫面

十三

[illegible]

○いかるが　実流さまを編貫にて[illegible]

天和四年[illegible]

[illegible]

○いかるがせるこう羽　新古

○鶏　十　秋の初しら[illegible]

[illegible]

○うつゝ鳴　主殿にまゐり又法華にまゐり[illegible]

[illegible]

○しゝふせ　○かけゝ　唐猫し元はいとけなくて[illegible]

[illegible]

○松花ゑ　[illegible]

○鳩　十五

○鳩ゆく　鳩とまれて人はれうし秋はれもしあり[illegible]

[illegible]

人とうふとそとの人に[illegible]

[illegible]

友とうれしくやうの鳩をふくとうとり[illegible]

[illegible]

[illegible]

○山しゝのうゝ　[illegible]

○鳴し　古相[illegible]

○[illegible]　○山しゝ[illegible]　○こゝ[illegible]

[illegible]

○鷹　十六付　鷹　狩山[illegible]

○箭鷹　[illegible]

○まゝろゝし　真白[illegible]

○まゝら[illegible]し　真白[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○

[illegible]

○[illegible]　○[illegible]　○[illegible]

○[illegible]　○つもるかぶとり　晨風　○こぬ

○世中は[illegible]　○こ西と山　○[illegible]山　○[illegible]

○[illegible]　○[illegible]

○[illegible]　○[illegible]　○[illegible]　○[illegible]

○[illegible]　○[illegible]　○[illegible]　○[illegible]

○[illegible]　○[illegible]　○[illegible]　○[illegible]

[illegible]

○あまくさうや

○ふまもせくつくふ[illegible]

○かりそめひ[illegible]

[illegible]

○かくさやぬにしをりくれへさて四とをしつ見れとくる

○一ちるにそうかふ[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○

○笠れ上ホ上毛下毛とも白毛にふれ特牛れ弁まうつ

○いて山ほなれまつてくれまいつ　そこいとやま山の奥より糸へ特て出しきされく出り

○毛ものいろ　ちりあくにくあ

○ひれおりやりてゆりてゆみ弟

○大つのもとそやねこ

○ゆふとりこれ安者ほ山ふり

○やとそれうくしとそく彩ようりつ

○ふめそぬうつにあるは

ら鹿れつれの　○きれれ

○三栄　大者く　○小鹿行家　小者うく

○うれる尾されとるれてら

○ふれまれけみまーや　白尾つくる

○あさぬれ家のうれもまも白尾つ

白尾　心ろまもれ

○ろれまれ世るあくさりせ

○着鹿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○世間にてさ　○しれこまつ　○ますらを　○てこそより　○つくばの山　○しれこと　○あし
○川　○原小篠　○さたらの口　○志のふ　○かつし　○ときけ　○やうなれ　○しを　○富ますらを　○何
○着　○ものをきそ　○ものをこそ　○ものをこそ　○あもせ　○本居　○大内人　○人も　○ものを
○ものを　○山　○ものを

○れし　○よろこそ　○つまと　○やうれし
○たち　○ものを　○ものを　○ますらを　○ものを　○ものを　○ものを
○ものを　○ものを　○ものを　○ものを　○ものを　○ものを　○ものを
○ものを　○ものを　○ものを　○ものを　○ものを　○ものを　○ものを

○鶯　十七

○うへ　○しれ　○つま　○しれ　○つま　○しれ　○山
○しれ　○山　○志　○しの尾　○ひく　○ものを　○ものを　○ものを

○しのぶ　信夫郡　○みちのくの国　○しのぶもぢずり　○人みな　○しのぶの山　○みちのくの国　○しのぶの郡　○あぶくま川　○しのぶの郡　○しのぶの郡　○しのぶの郡

○雁鶩 大き素奏等し 祝物

○そしれ毛衣○しれ猪ね毛ハ猪ね猪と猪ハ猪ハ猪ハ

○うとを祈せあしれ上毛○しとを丹 丹れ鴨に似し朝胡芦毛の馬をゆく
丹のうまのあかとの行くうしまみる

○うさねれ家 毛四つの家れ水を鴨にかさす水を鴨の乃ゆし
るるの月かくをとりうを毛を鴨に
家水をにまを込まにをとりり

上毛れ霜 みたうし
けにさゆ

○羽をりみちーにをり ○あさる芦鴨 あーにを鴨五 鴨五
あり

○芦鴨れ五を れ家 ○あーれ羽をれ雪○れう

○きねれ羽をうひ ○うりーれ ○かりれこ 鴨のひこをしう
水をれうのこれ世にををれうんうう かててををうれ
まをうれうのれやにをうのををり

○鴨 ○ーれ ○かりれ ○ーれ

○鴨 ○ーれ水をうやをを ○かをとをてるといふ人を

○れん鴨をををををへ ○その車れかりをかを ○山川れ
ををり

○あをりをこをるを出をにをれ ○表れきあ鴨の

○家に鴨をかをね

○鴨 文三

○かをとめ行る夜にのをを ○かまあ かをとあれ

○ーれ ○ーをを ○ーをを ○ーをを

○鶴　文五　和名抄鶴をつるとよむ鶴をたづとよむ

○あり　○きゝなし　○あり　○あり　○あり

[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○

[illegible]

所に浦潟五寸ばかり　ここうへ[illegible]

[illegible]

[illegible]

○ふくしまひ　神武天皇義兵付
弓上三弱し為吉相

○安持　村し　歌一

○あらしの　山のたにあらしの　疎なる　あれくはまの　古文思ふ　恋ふ　ふ　あ
　神し　ふ　とあらし　こまし　ひ　ら　ひ　ら　ひ　ら

○うぐひす　うぐひすとも　蔵玉

○人とはあれど宴さへ酒のみてそこに居てこそ行り所て

○風をいたみ田中の苅田穀隠かきねのそこに鶯なくなり

○伯労鳥　丈六

○尾花に来かなる○そこの宴秋かなくなり○三絃秋かをよ

○鶯　○とすれば茅萱　茅萱とは草の名

○鶯　丈七

○うぐひす　○これ内のまくすみかの鶯

○うぐひすてこれひとつ

○山陵　丈八

○山ぶきまゆすみかにそこあるかの四ありなり

○これ月も折うの山ー山うの月のかたうたのうの前
○山うの 捨遺 冬ゆうのやこうう山ーう飛ちうく

○小陵 廿九

○友祈そうそうをかうすすうあれうう人ふあうあうをは
○うう祈うすすこうあうをうそうもまう武蔵野の草うとをしうる
○玄きくうとみよう人の山里にこうう山里折梅のうう桜と
○うう山へれあうかううこうあハはあにあひくまあうう
○なうひあうこうあうれ中かうう人ふ山うまあ昭
○四十陵
○紅まうれ字うあとうくはうう冬葉すうう生れ梅と

○鶯 字一
○ううにはううこうれまくかふあうあうまをいはうて
○増百首 字二
○まうこあうう井うううう折うそうひはあうそう前憑と
○はあ山うう折れうこを思へうや桜あうきあうてうまうこふ
○火焼百 字三
○百姓あすみうくうあうう火焼うるあうあうう庭うみあ
○ううひはう米折うる山里をおうひうや火焼ちあう
○鶏 字四
○うう病あかうれとそうあうかやうれれうおもれ書はうん

○雲はれかやらす

○鶏　字五

○あやしくもかせにそよてふるきはをみるもあくる哉

○鶏　字六

○雲はれ日のもとかすむ山里に相長鳴いるるはつ

○雲花　字七

○春山はの雲のはらうれきてはかつ雪はつ

○都うら　字八

○色をそふるに相うる長はかくるかつ山はつ

○霜うら　字九　或ハ色をそふるしらかくる

○雲はれまとくいとるかをはるあくる

○うくきくるはるかすしき若をいるはるかひらあ初

○はつくるうしもるはは山のをこるるあるあ

○やさしはは山の端しむ志のうはかるるのこ志

○紅葉をういまてるをるはるの初にやはしん

○水色うら　字十

○雲はは日はをゆるはは勢はははひしさに水うひをはは初とのをあく

○志をくきてはくくるはすはくるはは山はるをはは水はるを

○山里は音はけひはるくはは水はるはは里はは同はあれ

○山はは野のはるはつくや霧はんうはひはあるはくさま

○貝母　五十一

○かれる　[illegible]　○かるく意すると云り　○うるひなくして憂

すると云　○まるく丸くあるく書れ形と云り　源氏にもあり　元うれる

焼と云り仏生家不知

[illegible]

○祈りてしるし

○佛法僧　五十二

○四つの國々に法は道にひろまれると云る佛法僧

○うゝの事をきゝあらはれる　○にとあるはねやうつ法僧

○書れたれ巣　○ゆるにあつきゝきゝの法僧

○啄木る　五十三

○うゝみる　元てつきれ事しるし

○木菟　五十四

○山ゝくゝ　元こうけいく

○つくる　元うけいく事しるし

○巣　五十五　漢に殺母鳥

○とれたるゝきゝゝの教　○るれゝ教　元鳥の事

源氏にゝ又鳥の事　元ゝ教にるゝとれたるゝ山

[illegible]

かゝる　元ハゝの行くゝ仏ゝ世俗ゝ[illegible]

山川の行くゝれゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

○弘中　この[illegible]鳥の事　二[illegible]

[illegible]

[illegible]

○奴要　五十六

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○鶺鴒　五十七　鳴而自鳴常奴南飛雖向東西兩翔し指必先南向し

○鶺鴒　[illegible]

○鶺鴒　五十八　[illegible]

○あつむしれさつつき　○あつむしれ

○[illegible]

○[illegible]　五十九

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

かゝる　六十

夏ゝ行ふかゝる山ゝ推宋に加ゝる名あゝりて

風風　六十一

とゝしきや相ゝ結ふすゝゝきゝゝ行のゝゝとゝ

鶴　六十二

濱田ふゝゝゝ杉ゝゝゝやゝゝちゝゝゝ

元祐し家神樂乃
西三條をハかゝゝゝゝゝ

かゝゝかゝゝ　六十三

うきゝゝゝゝゝ

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan